

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3190400048
法人名	社会福祉法人 境港福祉会
事業所名	グループホーム夕日ヶ丘 二番館
所在地 (電話番号)	鳥取県境港市夕日ヶ丘2丁目100番地 (電話) 0859-47-2277
評価機関名	(有)保健情報サービス
所在地	米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル 111号
訪問調査日	平成20年10月10日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	66,360 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.55 歳	最低 58 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会境港総合病院、小徳歯科、米子中海病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に開設されたグループホームに棟続きで、昨年11月、グループホームと認知症対応型ディサービスが新設された。まだ空き地の目立つ新興住宅街に位置しており、行政と綿密な連携を取りながら、地域の保育所や住民とも交流がもたれている。入居者の認知度は中・重程度が過半数を占めており、職員は身体的かつ精神的なケアに追われている毎日である。利用者が新しい環境に早く慣れていただき、落ち着いた生活が送れるよう、日夜努力されている様子が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回初めての評価にあたって、管理者より、自己外部評価の意義を学び、職員全員が自己評価を行なって、それを各ユニットでまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は原則に従い2ヶ月に1回開催されており、利用者の状況、感染症対策、防火対策、夜勤体制、事故対策などの報告が行なわれ、質疑応答がなされている。会議録もしっかりと残されている。ホーム側の報告が多いとのことであるが、自治会、市役所、家族の方々の出席もあり、ボランティアの要請や保育所との交流・協力をお願いして活用してほしいと思う。更にサービス向上に向けた討議が行なわれることが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情を受ける連絡先が明示されており、また、施設内に第三者苦情処理委員会が設置され、苦情意見に対して検討会を開くように整備されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のボランティアサークルの人との交流を定期的に行なっている。近日行なう秋祭りには、近隣の人を招待する計画がある。また、事業所のパンフレットを持って戸別訪問して交流の為の働きかけをしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念には、地域密着型としての理念となっておらず、現在検討中である。	○	11月の運営推進会議では報告できるよう検討中である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に事業所の理念を復唱して意識づけをはかっている。日々の実践の中では理念をもとに話し合い、意思の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日ごろの挨拶など地域の一員として良好な関係を築けるよう努力されている。また、毎月行なわれる誕生日会に地域のボランティアの人が参加され、余興を通して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より自己・外部評価の意義を学び、全員が参加して自己評価をまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は原則に従い2ヶ月に1回開催されており、利用者の状況報告や、問題のある事項などの報告が行なわれ、質疑応答も行なわれている。議事録も確認できた。		現在の所、ホーム側からの説明、報告に留まっている感があり、運営推進会議で抽出された意見をサービス向上に活用できる様工夫がほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市役所に出向き、施設の報告や情報交換を行ない、連携を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する広報誌に近況の欄を設け、担当者が利用者の状況を記入し郵送している。重要事項や緊急の場合は電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の相談窓口を重要事項説明書に記載しており、受けた苦情・相談に対しては、検討会を開き検討を行い、運営に反映させる体制が整備されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設拡大ということもあり、大幅な異動はあったが落ち着きつつある。対策として経験のある職員が新人の職員を指導する体制を組むなどの努力がなされていることが伺えた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長・管理者が必要と認めた研修への参加と、研修の情報提供を行ない、希望者を募る方法で研修が行われている。	○	施設内での新人研修等が優先という考え方も理解できるが、人材育成を効率よく行なう為に各職員の年間を通じての研修計画をたてられる事も一つの方法と考えられる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、施設間の相互研修にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者と家族に見学して頂き、他の利用者の様子や事業所の雰囲気、居室の状況等を知って頂き、本人の安心と納得が得られ、徐々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方から学ばせてもらうという意識が伺えた。対応が難しい方に関しては、家族と連絡を取りながら、対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で傾聴を基本に本人の思いや意向の把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族に思いや意見を抽出し、かかりつけ医の意見等も反映させ、利用者の現状に即した計画が作成している事が確認できた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しが行なわれている。又、本人や家族の要望や対応できない変化が生じた場合も臨機応変に現状に即した計画の見直しなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病気に対応した各医療機関への受診や在宅酸素療法中の利用者の生活支援が柔軟な支援が行なわれている。		利用者や家族にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援等、柔軟な支援がなされている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関がかかりつけ医の役割を持ち、往診、外来受診が行なわれているが、病状によっては専門医療機関への受診支援が行なわれている。また、2週間に1回の往診の他、希望のある利用者の受診に対しても柔軟な対応をしておられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化や終末期に対する家族の希望を聞くなどの取り組みが行なわれているが、チーム全員の支援になっていない。	○	終末期に向けた対応指針を決め、チームで方針を共有されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応に配慮している。個人情報保護にも徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調や思いに配慮した支援を行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専門のパート職員が作っており、季節感のあるおいしい食事が提供されている。利用者の希望を取り入れた誕生会の食事や外食なども行い、楽しみのある食事に取り組んでいる。		訪問日は五目ご飯だったが、男性の利用者が白いご飯を希望され、職員が快く白いご飯を提供されていた。素早い柔軟な対応に感心した。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、時間・曜日が決められてはいるが、希望のある方には時間・曜日等毎日柔軟な対応が出来るよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を生かした、食事の後片付けや洗濯たたみなどの役割、趣味や特技を生かした支援が行なわれている。		身体面・病状面での重度化の中、役割をお願いすることも大変だと伺える。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分、希望に応じて、散歩、庭の草取り、買い物、ドライブに出掛けている。外出の機会は多いとは言えないが身体状況等考えると仕方ないかなと思える部分も多いにある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅要求の強い利用者があること、入所してまだ新しい環境に慣れない利用者があるなどの理由もあるが、施設の構造上玄関が見えにくいことから防犯上玄関には施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で火災避難訓練を年2回(春、秋)行っており、夜間を想定した訓練も行っている。備蓄については水分を中心に検討中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分のチェックを行い、摂取量確保の為にきざみ食、とろみ食、ミキサー食、経口栄養剤など様々な工夫をこらした支援が行なわれている。		時には、栄養士のアドバイスを受け、栄養のバランスを見ていただくのも良策と考えます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの建物全体が広く、木造で気持ちが良い。食堂廊下は掃除が行き届き、清潔で木の香のかすかに匂う居心地良い空間となっている。中庭の草木に季節感が感じられる。		中庭の草取りは職員がされているようだが、利用者の方にも参加を促すことも良いのではないだろうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人・家族と相談しながら愛用品を飾り、暖かい雰囲気をかもしだしている。		